

令和 6 年度 第 3 回恵那市総合計画審議会 会議録

日時：令和 7 年 3 月 17 日（月） 15 時 30 分～

場所：恵那市役所 災害対策室 A ・ B

1 開会

2 会長あいさつ

3 本部長あいさつ

4 議事

（1）基本構想（案）について

資料 No. 1

（2）基本計画（案）について

資料 No. 2 資料 No. 3

5 その他

（1）今後の策定スケジュールについて

資料 No. 4

（2）次回開催予定 令和 7 年 4 月下旬頃

6 閉会

1 開会

■事務局（進行）

これより開会する。私は本日進行の企画課長の和田です。

委員 18 名のうち 13 名が出席。名簿 9 番柘植麻美様、11 番西尾吉江様、12 番西尾綾介様、13 番長谷川幸乃様、15 番矢頭重保様の 5 名が欠席。

会議は公開とする。

2 会長あいさつ

■会長

内容が詰まってきた。本日は実質的な議論ができるよう進行を務めたい。

3 本部長あいさつ

■副市長

総合計画審議会に出席いただきありがとうございます。

ただいま市議会中で、令和 7 年度予算を審議中だが、一般会計が 315 億 5 千万円と合併以来最大の大型予算。令和 6 年度から子育て支援事業を拡充してきた。本年度もそれに上乗せする。

また、中学校の体育館に空調設備を設置する。体育館は緊急時の避難所になるので、できるだけ早く整備した方が良いとの考えから、県下でも非常に早く整備する。他にも、恵那南中学校整備、恵那峡サービスエリアのスマートインターチェンジの整備、リニア関連事業といった大型事業を継続して進める。よろしくお願いします。

4 議事

(1) 基本構想（案）について

資料 No. 1

(2) 基本計画（案）について

資料 No. 2 資料 No. 3

■事務局（進行）

議事に入る。進行は服部会長にお願いする。

■議長（会長）

本日の議事は 2 つ。基本構想案と基本計画案。事務局から一括で説明いただく。

■議長（会長）

質問、意見があれば。

■委員

2点ある。1点目は、資料3の14ページ、39ページに「市民協働」という部分があるが、この基礎となる恵那市内の市民団体の把握ができているか。誰と協働するのかということを整理してほしい。

2点目は、リニア関係。資料42ページに品川から名古屋までの路線図があるが、これは横のライン。前に私が青年会議所でやっていたのは「十字作戦」といって、横のリニアだけでなく縦の道の視点もあり、そこで集客をするという狙いがあった。道だけでなく人の往来、文化、例えば栗などの農作物の文化などそういう生産的なものの交流の軸が、SDGsにもあり、大事だ。縦のラインも考えてもらいたい。

■議長（会長）

市民団体についてとリニアについて。

■まちづくり企画部長

市民協働について。協働と言ってもいろいろな分野がある。まちづくり企画部の中の協働ということでは、地域の団体、市民まちづくり活動団体の把握はしているが、その他にも、農業の団体や商業の団体などいろいろあると思う。ここに羅列はしていない。

■建設部長

横軸は大きなもので、東京と名古屋という大都市圏を結ぶ。縦のラインは、新城などと結びたいと考えており三河・東美濃高規格道路の構想がある。リニアの効果を生かしたい。それも視野に入れて考えたい。

■議長（会長）

絵として計画にどう表現するか、引き続き検討していただきたい。

■委員

今日は3と4が重点ということだが、その前に感想を述べる。

今、恵那市に住み暮らす人が幸せで、当たり前なのが普通にできるというのが基本になると思う。計画の骨子案を読んでも、前回よりバランス良く考えられ、スポーツ、文化などにも触れられており、心豊かな生活ができていくので、こうあるべきだと感じた。新たに恵那に来た人も、そうでなければ住みやすくないし、幸せになっていけないという前提条件があると思った。

そのうえで、「これが恵那市の特徴である」というのが、見えてくるのが大事だと思う。その一つとして、文化の拠点については、今は文化センターとかえでホールだが、岩

村も、元役場が文化・歴史の拠点としての繋がりを作れる施設になると聞いた。他にも各地域に五毛座などの拠点があるが、それをどう繋いでどうしていくかが重要。スポーツについては、スケート場もあるし、まきがね公園もあるし、これからのやり方次第だと思う。

■委員

19、20 ページの柱 2 の保育と教育について。その中でも特に障がいのある子について。一般的にはインクルーシブ教育と言って、普通の生徒児童と障がいのある子とが一緒に教育を受けるというのがよく叫ばれているが、障がいのある子供たちの教育についての記述がほとんどない。恵那市として学校教育の中で障がいのある子供たちをどのように育てていくかに触れられていないので、少し記述があると良いと思う。

もう一つ、19 ページの一番下の目標数値。指標で「保護者評価『とてもそう思う』』」というのは何に対して「そう思う」なのか分からない。記載を付け加えてほしい。

25、26 ページ、社会福祉・地域共生社会の推進について。この中でインパクトを受けたのは、26 ページ「民生委員児童委員と連携して」と入っている。

民生委員児童委員については、1 期 3 年という任期があるが、退任する人が非常に多い。恵那市全体で 143 名の民生委員がいるが、毎回、半分ぐらいの方が退任する。民生委員の成り手不足がある。就業している人も駆り出しても、地域の中で担い手がおらず、高齢化していることもある。

「民生委員児童委員と連携して」と言われると、民生委員が非常に期待されているという捉え方もあるが、逆に言うと、荷が重い。第 3 次総合計画で「民生委員と連携して地域の課題を把握」とうたわれると、荷が重い。

今の民生委員 143 名のうち半分以上が仕事を持っている。さらにこれからも続けてもらうのが難しいところがある。可能なら、「民生児童委員と連携して」という書き方は省いてほしい。

■議長（会長）

重要な指摘だ。

■副教育長

インクルーシブ教育は、ヨーロッパなどの他の国では重要視しているが、日本では特別支援教育に力を入れ、そういった子をきちんとみてもらえるように、人的配置を含めて対応する流れになっている。それも踏まえたくうえで、本来、通常学級にいる子供たちの中に特別な配慮が必要な子も一緒になってやるインクルーシブ教育をやっていないといけないという動きができています。19、20 ページ、幼児教育の中には、「多様な特性、ニーズに応じて一人一人に配慮した適切な支援をする」というところで、加配の教員を充実させたり、学校教育の中にも学校生活になじむことが難しい児童生徒の学習等の機会を確保していくということで、市の支援員を募集したりしながら、個別な教育を充実していくという

ことを進めながらも、18 ページにあるような、「多様な他者との関わりを大事にしながらやっていく」というのも含めてやっていく。インクルーシブという大事なところも忘れずにやっていかないといけないと考えている。

さらに、恵那南中学校を新たに開校するが、不登校対策を含め、学校外でもそういう子もケアしていくよう、教育拠点施設を整備し、そこにも人的配置をしていく。

そういうことがこのページに盛り込まれている。

■議長（会長）

それは、どこに書いてあるということの説明か。どこに書いてあるから盛り込まれているということか。

■副教育長

拠点施設のことはここに書いてない。

■議長（会長）

今後、修正していくということか。

■事務局（教育委員会）

はい。

■議長（会長）

そういう視点がまだ十分ではないので、検討していきたいということ。

目標指標の1つ目については。

■事務局（企画課長）

毎年、保護者によるこども園の評価を実施している。10 項目ほどある設問に「とても良いと思う」と答えた方の割合ということ。

■議長（会長）

こども園の評価について、「とてもそう思う」の割合がということか。

■事務局（企画課長）

そう。ここはもっと分かりやすく記載する。

■議長（会長）

民生委員の記載については、削除するかどうか検討ということだと思う。民生委員の成り手不足はなかなか大変なことだと思うが。

■医療福祉部長

26 ページ 2 について。地域の課題、地域住民の困りごとを把握するということについては、やはり民生児童委員が頼りであることは今も昔も変わっていないという認識で、このような表記になった。今年 12 月の改選でも、143 人の委員の皆様には苦勞をとてまかけていることは把握しており、申し訳なく思っている。この表記が改選に影響するならば見直しする。調整する。

■議長（会長）

困りごとの把握の仕方も多様化していると思うのでそれも含めて考えてほしい。

■委員

民生委員について。私も2年前に自治会長をやり、今年は会計をやっている。うちの自治会ではずっと同じ人が民生委員をやっており、その人ももう限界なので福祉委員と分けてくれと言っている。高齢化が進行している。私の住んでいる地域の自治会でも、同じ人でしか回せていない。福祉委員や各自治会が抱える問題が、今後20年で解決できるのかと思う。逆に衰退して、自治会同士が合体していくイメージを持っている。そうしたとき、20年間、この基本方針でこの内容で良いのかというところを、もう少し検討した方がいいと思う。我々の自治会でも、新しい人が入ってもなかなかできない。

■医療福祉部長

福祉委員は長島町独自の制度で、民生委員を補完するもの。自治会長が福祉委員を兼ねるところが多い。自治会すら20年間存続が危うい中で、民生委員がこれで行くのかというのはおっしゃる通り。民生委員を4年で見直すとは言うものの、そのような表記の仕方は、民生委員の成り手がない中で、変えていく必要があると思う。

■委員

リニアとの関係について。リニアを頼るところと活用するところを切り分けた方が良い。例えば、36 ページ、観光の推進。「リニアの開業を期に」とあるが、まだ開業していない。開業してからやるものと、開業前からやるものがあると思う。これからやるものに対してインフラ整備をするのは重点施策にあり賛成できる。観光については、リニアが開業しなくても、外国人も来ていたりするし、リニアのウェイトを下げてもいいと思う。

定住について。都市と交流してそこから来てくれる人を増やすということ。これは、国際社会、その上に「国際感覚豊かな人材」というのがある。これは海外も含めるのか。

■議長（会長）

「リニアの開業」というのは、4年間の計画だと少しおかしいのかもしれない。調整いただきたい。

■まちづくり企画部長

移住定住に向けた交流は現在も進めている。海外に向けてというより、外国人で恵那に移住を決めた人も何人もいるので、恵那市内で外国人との交流をするということは、今までもやってきた。海外も含めるが、現状の取り組みとしては国内をターゲットに実施している。

■委員

31 ページ。公共交通について。まちなか巡回バスは車いすだと乗れない。こういうことも一つ検討していただけないか。

教育関係。岩村に支援学校がある。就職する場合、ある意味で差別化される。書類選考の時点でなかなか難しい。そういう目で見られてしまっている。社会がそう見ているという感じがあると思う。それは、恵那市だからということではないと思うが、障がい者理解が進んでいないと感じる。

もう一つは、男女の問題。どこもそうだが、男性が会社に入ることになると、大抵の会社は正社員で入れてもらえるが、女性は契約社員か派遣社員になり、なかなか正社員化されていない。そういうものも、行政の直接的な話ではないが、男女の雇用機会の均等について推進してもらおうと、恵那市に人がより集まりやすく、定住しやすくなる。恵那市だと自分の行きたい会社がなければ結局都会に行かないといけない。例えば、恵那高校の理数科を出て活躍できる場が市内にどれだけあるかとなると、名古屋や東京に行った方が活躍しやすいので、そちらへ向いていると思う。

恵那市に魅力があればよそからも来る。そこをどういう方向性にするかが大事だと思う。恵那には古い文化があり中山道もある。恵那市は和宮の行列が4日間にわたって通ったり、毎日ここにたくさんの人が通ったりしていて、にぎわいがある町だった。それをもう一度掘り起こしたらどうか。

差別みたいなのはなくした方がいい。SDGsの中にも、そういうところが中心になってあると思う。それをもっと推進しているというところが見える化できたらいい。

中京学院大学が中津川市からなくなるので、中部大学などからどの学部でもいいので恵那に来てもらって、恵那を若者が来るところにしていきたい。

■議長（会長）

中部大学は武並にキャンパスがあるので、恵那市もぜひ活用して学生がこちらに来るように推進していきたい。

重要な指摘があった。就職機会での人権平等を推進したらどうか。就労の場の魅力づくりをしたらどうか。そういう意見だった。

■商工観光部長

産業観光振興の推進、雇用対策等を記載している。年齢や障がいの部分の記載があるが、性別が漏れているので、修正を検討したい。

■議長（会長）

その他、基本的な人権については、市としても推進していると思うので、そういうこともしっかり表現していきたい。

■委員

自治会について。私も移住して日が浅いこともあり、自治会の仕組みが分かってないが、移住した人や、市内で賃貸に住んでいて自治会に入らなかった人が家を持って、初めて自治会の存在を知るといったケースが若い人にはあると思う。昔は自治会に入るのが常識だ

ったと思うが、若い世代はその価値やメリット、デメリットが分からないと判断できないという人も多いと思う。それで実際入ってないという話も聞いたことがある。ただ、私自身は入っているし、自治会の存在意義も理解している。武並の分譲地に引っ越してくる人から自治会について聞かれたので、知っている範囲で伝えたら、入るということだった。自治会の役割、価値を、知っているだろうという前提ではなく、知らせるような取組があるといい。

もう一点。基本方針1か2に関わる。難しい面があるとは思いますが、自然豊かなまちなので、里山留学、山村留学として、都会から1年とか数カ月、短期で保育、小学校に、子供やもしくは家族に来てもらうことを検討してはどうか。上矢作や恵南では子供が減っていて、移住者が増えることは簡単ではないと思うが、同世代の交流、たまにほかの園に遊びに行くというよりも、まとまった期間触れ合って過ごすのが大事だと思う。

■議長（会長）

移住に当たっての自治会への繋ぎ。そういう支援をしている自治体もある。

■まちづくり企画部長

自治会加入について。外から来た人には、転入届を出したときに自治会の取り組み内容を紹介しているし、ホームページにも情報を載せているが、なかなか見てもらえていない現状もある。周知しづらい部分がある。移住の制度を使ってきた人には、地域面談があり、そこで地域の人から詳しく聞けるが、それ以外の移住者や、都会からアパートにきた人などに関しては説明できていない。こちらとしても、良いところを伝え、地域自治にも結び付けていきたい。地域自治区の人と一緒に考えていきたい。

■議長（会長）

里山留学、山村留学について。

■教育委員会事務局長

こども園では、恵那市出身者の方が外国に定住されていて、1カ月か2週間ぐらい実家に戻ってくるから子供も受け入れたという実例がある。美濃市ではそういう制度をやっている。子供の数が減っているので、受入れ態勢の環境整備が大前提としてあるし、2、3週間でもどこに住むかも関連してくる。環境を整えた上で考えていくのも大切だと考える。

■委員

25、26 ページは、社協も多く関わることなので、目標指標も自分が関わっているから分かりやすいが、39 ページの協働のまちづくりの推進では、ふるさと納税が令和5年度基準値が2.3億円で目標値が10億円というのが良い指標かどうか分からない。これは個別計画との連動でこういう計画になっているのか。数字がすごく上がっている。令和6年度のふるさと納税額が分からないが、達成できるのか。

■まちづくり企画部長

ふるさと納税額は、令和 6 年度見込みは 3 億円。だんだん伸ばしていく予定。10 億円も達成できるくらい作戦を練っていききたい。外部委託も増やして商品開発のてこ入れやホームページの見栄えの改善なども予定しており、目標額は 10 億円としたい。

■委員

34 ページ。自然との共生の推進がある。し尿処理の関係。自然共生の推進とはちょっと違う気がする。し尿処理の収集、運搬、ごみ処理は CO2 の削減のところに入れた方がよいのでは。これからごみの広域化もあるし、ごみ処理にはエネルギーもかかるしコストもかかる。運搬を計画推進するのはいいことだ。

■水道環境部長

表題の項目と内容がおかしい点があるので修正する。

■委員

2 点ある。資料 1、10 ページ、拠点という言葉がある。地域拠点。今、学校現場では、不登校の児童生徒が、街でも恵南の方でもいる。学ぶという点では、家にいるだけになってしまう。拠点は今は振興事務所になっているが、そういう児童生徒が学習できる場をこの中に設けてほしい。ただ、専門的スタッフがそこに必要となってくる。予算的な面もあるが、恵那市の子供たちが平等に学習できる場を設けることは大事なことだと思う。その辺の言葉を入れてほしい。

もう一点。恵那の食の価値向上プロジェクトについて。恵那市の農業に携わっている人がたくさんいる。学校給食に農産物を提供してくれる会社も多くある。地産地消と書いてあるが、旬産旬消という言葉も入れてほしい。恵那市の農業に携わる人が学校給食に力を出してほしい。恵那の食は良いというアピールを学校給食から手掛け、それを一般の人に知らせることで、地域の産業が発展すると思う。

■議長（会長）

不登校児の学びと、学校給食について。

■農林部長

令和 7 年度からは農林部として学校給食に地元産をとにかく入れたいと思っている。現状は、20%ほど。米は、すでに 100%市内産だが、その他の野菜にもこれから力を入れたい。土地柄で使ってもらおうということもあり、旬のものしか作ってもらえないし学校に入れない。旬のものを食べていただくのに良い言葉だと思う。

■副教育長

不登校児のためということではないが、まず恵那南中学校から、恵南地区を中心に、振興事務所を拠点として学校外で学ぶ場所を作って、そこに人を配置したいと考えている。もし不登校の子が来ても対応することを考えている。ゆくゆくは恵那市全域にできればと

考えている。

■委員

全体的によくまとめていただいている。あまり細かくすると訳が分からなくなることがあると思う。後工程である個別計画を立てるところなど、各課がやっていけばいいと思う。

一点だけ、目標値の妥当性について。自分の専門のところはこんなものかなと思うが。どこでどう決めていくのか。

■事務局（企画課長）

目標値は、それぞれの分野で個別計画を持っているので、その指標を引用したい。ただ、評価の方法については、指標だけを見て、全体の施策が全てできているかとか、施策をしつかり達成できているかは、指標だけを見ても評価が難しい項目もある。目標指標をどう評価するかは今後もう少し研究して詰めていきたい。

■議長（会長）

妥当性はこの審議会で委員それぞれの立場でコメントをいただきたいし、担当部局で検討いただきたい。アグレッシブなのか安全策なのかそれぞれあると思う。どういう姿勢を示していくか改めて検討いただきたい。

■委員

基本構想 20 年ありきで、基本計画は 4 年ごとに見直すということだが、相互に分析していかないといけないだろうと思う。基本構想と基本計画の 2 層のあり方について。例えば、基本計画では学校教育の充実で「学力の育成に努めます」とあるが、基本構想と基本計画でうたっていることの整合が図られないといけない。

ここ数年で、子供たちの読解力が少し弱くなっているという心配がある。思考判断を飛ばして答えに飛びつきたい子が増えてきている。

22 ページで、子供たちに地域の文化を伝えるということが書かれているが、確かに子供たちに地域の文化など伝えたいものがたくさんあると思う。しかし、それを何でもかんでもやらせると、子供たちの中心がぶれていくことに結果としてなるのではないか。米作りや中山道を歩く体験、伝統芸能の練習など、どれも良いことだが、バランスに気を付けなければいけない。特に小学校はいろいろなことを体験させる時期だし、いろいろなことを好きになる。中高生より小学生が地域のことをよく知っているし、地域を好きだと言っている。アンケートでもそういう結果だった。先を読んで計画的に学ばせる必要がある。

■議長（会長）

教育について重要なコメントをいただいた。今のコメントを踏まえて書いてほしい。

■委員

リニアについて。恵那市には駅はできないが、武並地区でトンネル掘削工事がされている。

瑞浪市の日吉地区は、掘削したところから現場まで全部ベルトコンベアで 2km ぐらい土を運んでいる。ものすごい量のものをダンプカーではなくコンベアで運んでいる。規模がすごい。しかし、それに何の表示もない。リニアの工事なのにその表示がない。恵那市もせっかく工事をしているので、何の工事なのか、将来に向けてこういうことがあるということを、学校教育の中で見せていただきたい。どこかのトンネル工事は見学させているとニュースで見た。大人だけがリニアと言っているのではなく、子供たちにもリニアを意識してもらえるような活動をしてもらおうと良い。中津川市は市役所の近くに企業かどこかのものでリニアの看板があるので、恵那市もそういう意識醸成をしたらどうか。

■議長（会長）

リニア建設に関して市民や子供たちへの情報発信、意識醸成が必要ということ。

■建設部長

恵那では、武並町から山岡町の方に、圃場整備のために残土を運んでいる。恵那市も武並町で残土が出始めたばかり。これから大井町、岡瀬沢からも出る。大きな事業なので小学生に見ていただくことも必要と思っている。相手がＪＲであり難しいところがあるが、研究する。事業の周知については、ホームページで事業の進捗率を全て公開している。

■議長（会長）

検討いただきたい。

■委員

46 ページの重点プロジェクト「にぎわい拠点レベルアッププロジェクト」の中の主な取組で、「地域通貨の導入」とあるが、これに限定していいのか。「地域経済の活性化」など地域通貨の導入も含めたもう少し広い書き方の方がいいのではないか。地域通貨は運用コストも初期導入コストもかなりかかるし、導入した地域が全てうまくいっているわけではない。検討が必要なものだと思う。

■議長（会長）

懸念ということで検討事項としてほしい。

これで議事を終了する。

5 その他

(1) 今後の策定スケジュールについて 資料 No. 4

(2) 次回開催予定 令和 7 年 4 月下旬頃

■事務局（進行） 2 点情報共有する。

〔 事務局から資料に基づき説明 〕

6 閉会

■副会長

事務局には、12月の会議で出された意見をもとに、3か月で仕上げてくれるようお願いした。それなりに仕上がっていると思う。今日も多くの意見が出た。次の開催は4月下旬なので、時間がないが、できる限り意見が反映された資料を調べていただきたい。

ただ、協働については、重要な視点だが、協働の対象が分からないということなので、それを明記していただきたい。

自治会への加入率が下がっているということは、地域自治区会長会議でも課題としている。解決に至っていない。加入のメリットデメリットを考えてという人があるが、私はずっと恵那に住んでいてずっと自治会に加入しており、デメリットを感じていない。今の人は何が得なのかということがあると思うので、もう少し丁寧に行政でも地域でも努力しないといけない。

移住について。里山留学、山村留学に関しては、資料1の10ページの土地利用構想のイメージ図では、北部地域は「恵まれた自然環境を生かした里山交流地域」というのがあり、中野方などでは移住まではしていないが、交流事業として岐阜の方から人が来たりという活動もしているので、そういうところも事務局でいろいろ指導をしていただきたい。

引き続き皆様で手を携えて、この総合計画が良くなっていくように、足並みをそろえて進みたい。今年度3回、ありがとうございました。

これで終了する。

〔 閉 会 〕